



# わになって

幕別町発達支援センター

令和6年度  
第3号

令和6年8月26日発行

蒸し暑い日が続き、“夏バテ”を感じている人はいないでしょうか。

さて、“猛暑”によって、学校の夏休みが長くなりましたがどんな変化があったのでしょうか。子ども達に、何が楽しみか尋ねると“お祭り”“花火”“プール”“お泊り”といった返事が多く聞かれ、楽しさは今も昔も変わらないのだとあらためて感じます。年齢に関係なく感動したことは“楽しかった思い出”として記憶に残り、感動が意欲やエネルギーにつながっていくのだと思います。楽しい思い出と経験を胸に“2学期”“残暑”“〇〇疲れ”…を乗り越えたいですね。また、疲れをためないよう暴飲暴食を控え、生活リズムや環境を整えて元気に過ごしましょう！！



## 発達支援講演会を開催しました！

7月26日札内コミュニティプラザにおいて、3人の講師を招き『一緒に育ち、広げる輪～支援の一步は理解から～』と題して講演会を開催しました。前半は、テーマに対する講師それぞれの立場での思いを語っていただき、後半は、講師に参加者から出た質問に対して、対談形式で答えていただきました。講演の内容を一部お伝えいたします。



### ☆佐々木浩治さん～信頼できる大人、カリスマティックアダルト＝魅力的な大人の存在

福祉事業側の体験をもとに、発達障害に限らず現代の子ども達が直面しているヤングケアラーや母子愛着に起因する境界性パーソナリティ障害などの課題についての話がありました。二次障害や、実際に課題に直面している子どもたちに対して「少し手を抜く、撤退する」という声掛けも必要な時があると表現されています。背景には信頼できる大人、行動モデルとなる大人＝“カリスマティックアダルト”の不在が大きく影響しているという話もあり、“魅力的な大人”の存在がキーワードとなっていました。



### ☆日置真世さん～対等な「関わり合い」「学びあい」の関係

重度障害、発達障害の娘たちの保護者としての経験と、現在の支援者としての立場から、保護者の心情に注目した内容でした。「支援」という表現は上下関係があり対等ではない印象を与える言葉だということ指摘し、健診や相談という場は、「評価される」というイメージが強くプレッシャーだったことや、何気ない言葉で否定された感覚をもったことなど具体的なエピソードを通して話されました。対等な関係性について「関わり合い」「学びあい」という言葉で表現し、本当の意味で保護者に寄り添うということが、どういうものなのかを考えさせられる内容でした。

### ☆平川正規さん～純粋な気持ちで「傾聴」

教員として特別支援教育に携わった経験から、一人の子どもとその保護者とじっくりと向き合うことの大切さに関する内容でした。「教えてもらった」と繰り返し表現され、支援者が自分の経験に基づいて話を聞くのではなく、まっさらな気持ちで「傾聴」する向き合い方が、子どもをはじめ保護者との信頼関係の構築につながるということを自身の体験を裏付けとして話されていました。

後半は、日頃の対応に迷うことや講演の内容を掘り下げた質問を中心にそれぞれの立場から回答があり、「1つの話題に対していろいろな視点からの話が聞けて、話が深まりとても良かった」などの感想が寄せられました。時間が足りなかったと惜しむ声も聞かれ、様々な立場の方にとって学びや気付きの多い講演会でした。



## お知らせ&お願い

- \* 9月下旬から10月上旬にかけて、個別支援計画会議を行います。  
月4回療育の**児童発達支援のお子さん**は、**9月は3回の療育**になりますのでご了承ください。
- \* 水分補給用のお水またはお茶を忘れずに持参してください。また、中庭で活動を行うこともありますので帽子も持ってきてくださいね。

第2回の発達支援講演会は、11月22日(金)に実施します。聞いてみたい内容などありましたら、センターの意見箱にお寄せください。